



笠間市長
山口伸樹

明けましておめでとうございます。市民の皆さまには、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より市政全般にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返って

若い世代の活躍に喜びと感動

笠間市には、さまざまな分野で輝く若い方が大勢います。

昨年を振り返ってみると、まず、プロスポーツの世界では、女子ゴルフアー畑岡奈紗選手の世界女子オープン連覇と2週連続優勝、同じく金澤志奈選手のプロ初優勝、男子ゴルフアーの星野陸也選手がツアー大会で6位の

成績を収めるなど、笠間市出身プロゴルファーの活躍が大きな話題になりました。大相撲では、昨年の春場所において笠間市出身の玉金剛さんが三段目初優勝を果たし、プロボクシングにおいては、富施郁哉選手が新人王に輝くなど活躍をしています。

アマチュアスポーツの世界でも、高校3年生の女の子が全日本馬術大会で昨年に引き続き優勝を飾り、自転車スポーツ「BMXレース」では、小学6年生の男の子が世界大会への出場を果たしています。また、高校野球においては、笠間高校のピッチャーが1試合26奪三振を果たし、53年ぶりに茨城県記録を塗り替える新記録を達成しました。

スポーツ以外でも、詩吟の全国コンクールで、中学3年生と小学5年生の姉妹がそれぞれ優勝を飾っています。また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が主催した東京五輪のポスターコンクールでは、中学3年生の女の子が全国2万6292点の応募作品の中から金賞5作品の一つに見事選ばれました。

昨年は、ここに書かせていただいた以外にも、次代を担う多くの若い人たちの活躍が、私たちに大きな喜びと感動を与えてくれました。

公共施設の充実と観光振興も

一方、市政におきましては、地域交流センターともべ「トモア」と、地域交流センターいわま「あたご」がオープンしました。地域の交流活動や健康増進の拠点として、多くの方にご利用いただければと思います。

保育・教育施設として、4月には本市2番目となる幼保連携型認定こども園「いなだこども園」が開園し、また、南小学校、南中学校が一つとなった「みなみ学園義務教育学校」が開校しました。9月には、生涯学習の拠点として昨年からの改修工事を進めてきた笠間公民館がリニューアルしました。



幼保連携型認定こども園「いなだこども園」

観光施設としては、北山公園バーベキュー場がオートキャンプ場を併設した新たな施設としてオープンしました。観光振興において、110回目を迎えた笠間の菊まつりは、茨城大学生との連携により若者の視点を取り入れた新たなイベントに転換してきました。かさま新栗まつりは、2日間で4万7000人を超える方に来場いただくほど好評で、笠間市を代表するイベントの一つとしてさらなる工夫をしていきたいと思っています。

企業誘致では、旧畜産試験場跡地において株式会社モノタロウの物流拠点が本格稼働し、多くの雇用が創出されました。その他にも、空家対策、有害鳥獣被害防止対策などといった課題にも新たに取り組んできました。



地域交流センターともべ「トモア」

本年の取り組み

新たなまちづくり「未来への挑戦」

笠間市においては、平成18年の合併時に8万1000人を超えていた人口が、この10年程の間で5000人ほど減少している状況にあります。このような人口減少、少子高齢化社会においても将来にわたり成長、発展、持続するまちを創るために、これまで「笠間市創生総合戦略」を策定し、人口減少の抑制と自律的な都市の確立に向けた取り組みを進めてきました。そして、これまで減少が続いていた出生数が、平成28年は29人とわずかではあります。前年を上回るという嬉しい結果もみられました。

昨年4月にスタートさせた笠間市第2次総合計画では「人口減少抑制」と「地域経済活性化」を柱とした新たなまちづくりの取り組みを「未来への挑戦」として定め、将来にわたり誰もが希望を持ち続け、心身ともに健やかで豊かに暮らすことができる笠間市をこれから目指してまいります。

医療、保健、福祉機能を集約

本年は「仕組みの改革による成長する笠間づくり」を重点課題として位置づけ、これまでの手法にとらわれることなく、公民連携による柔軟な発想なども取り入れながらさまざまな取り組みを進めます。

4月に「地域医療センターかさま」を開設します。地域医療センターかさ



地域交流センターいわま「あたご」

まは、市立病院、保健センター、地域包括支援センターなどの機能を一つにすることにより、地域の医療、保健、福祉の拠点としての取り組みを進めていきます。まず、市立病院では、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリなどの在宅医療の取り組みを重点的に進めるとともに、共働き家庭の支援のため病児保育なども実施します。保健センターについては、これまで各地区にあった保健センターを一つにして人と機能を集約することで、市民の健康増進、出産から子育てまでの切れ目のない支援体制をより充実させていきます。地域包括支援センターでは、医療・介護・保健の多職種専門職が連携

することにより、適切な相談支援ができる体制を構築し、医療・介護予防・生活支援などが一体的に提供できる包括ケアシステムの充実に努めます。

新たな観光交流拠点を整備

本年は明治元年から起算して満150年の年に当たります。市内にも明治期から引き継がれている技術や文化遺産、建造物などが多く存在していますが、明治期からの老舗旅館であり東日本大震災により廃業となった井筒屋について、本館建物を改修し、新たな観光交流拠点「かさま歴史交流館井筒屋」としてこの4月にオープンします。笠間稲荷門前通り周辺では震災後空き店舗が増加状況にありましたが、地元の方々を中心に地域活性化に向けた取り組みが進められ、最近では空き店舗を活用したカフェや居酒屋、八百屋、シュークリーム店など6店が新規出店するなど活気を取り戻しています。

かさま歴史交流館井筒屋では、建物1階に観光インフォメーション、2階には歴史展示コーナー、3階には会議や集会などに利用できる多目的スペースを設置するほか、建物の外にはイベントなどに利用できる交流広場も整備されますので、新たな笠間稲荷門通りの顔として、多くの方々にご利用いただきたいと思います。

地域産業の振興へ

地域の産業振興にも力を入れていきます。地域資源である「笠間の栗」に

ついては、生産拡大のため、笠間市農業公社において約14・5ヘクタールの管理ができなくなった栗畑や、遊休農地を借り受け、植栽・改植・剪定などを行うとともに、「笠間の栗」のブランド化に向けた品質の向上、生産体制の確立、新たな商品の開発などを進めてきました。昨年末にはJR東日本と連携し、首都圏の主要駅などにおいて「笠間の栗」を使った商品の販売、山手線、京浜東北線などの車内モニターでのPR動画広告のほか、JR東日本の特急、新幹線内に置かれる情報誌で「笠間の栗」特集を掲載してもらったなどの取り組みを行ってきましたが、今年も企業や団体などと連携しながら、新たな商品開発、さらなるPRの拡大などを図っていききたいと思います。

また、農業、商工業、建築業などさまざまな業種で深刻な後継者不足の課題についてですが、昨年農業において、家族以外の第三者への事業承継に向けた事例が3件ほどありました。地域産業の振興のため、後継者不足に対する取り組みなども進めていきたいと考えています。

以上、まちづくりの一端を述べさせていただきましたが、輝く未来に向けて着実に前進する取り組みを本年も重ねていきますので、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年も市民の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。